

授業科目	社会福祉				
担当教員	吉村 謙				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

**授業の目的**  
 社会福祉の理念や歴史の変遷、法律、制度を理解する。そして最近の社会福祉の動向と課題をとらえ、自分自身が社会の中の一人として生活していること理解する。

**授業の到達目標**

1. 社会福祉の理念、法律、制度を理解する。
2. 子どもや家族と関わる保育士として必要な社会福祉の基本的な考え方を学ぶ。
3. 対人援助者としての専門的な知識、技術などを学ぶための基礎的知識を身につける。

**自修について(予習・復習内容等)**

- ・テキストの授業に関わる部分を事前に読んでおく。(毎回1時間)
- ・新聞やニュースなどの社会福祉に関することについて関心を持ち、自身で調べたりして質問に答えられるようにする。(毎回2時間)
- ・社会福祉に関する文献を読んだりビデオなどを見ておく(毎回1時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション-授業のすすめ方など
2	社会福祉とは
3	社会福祉の歴史(1)-世界における歴史-
4	社会福祉の歴史(2)-日本における歴史-
5	社会福祉の法体系
6	社会福祉の実施体制
7	子どもと家族の福祉
8	障害のある人の福祉
9	高齢者の福祉
10	生活が困窮している人の福祉
11	社会福祉の専門職と倫理 -援助者自身をみつめる-
12	社会福祉の援助技術(1)-対象者を共感的に理解する-
13	社会福祉の援助技術(2)-対人援助を実践的に理解する-
14	人権について考える-子どもを中心に-
15	まとめ-社会福祉について考える-
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 確認テスト30%、毎回提出するミニレポート50%、課題20%、計100%

**教科書**  
 『保育士をめざす人の社会福祉』みらい

**参考書・参考資料**  
 授業で紹介する

**その他(学生へのアドバイス)**

- ・授業に必要なものを毎回持参すること
- ・配布資料は各自、整理し保管すること

授業科目	児童家庭福祉				
担当教員	小塚 光夫				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

**授業の目的**  
 児童の福祉と家庭の福祉の違いを理解することにより、その内容を深めていく。  
 児童福祉の理念を理解する事による、子どもの幸福と家庭養育を学ぶ

**授業の到達目標**

- ・テキストを使用し、児童と家庭をとりまく環境等を理解し説明できる。
- ・レポートにより、福祉施策を理解して説明できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 児童問題や家庭問題等の社会問題を取り上げた情報記事等を利用して福祉を学ぶため、予習・復習(各2時間)。まとめのレポート作成(30時間)。

回数	授業計画・内容
1	児童福祉と家庭福祉とは
2	児童と家庭をとりまく現状
3	児童家庭福祉の成立と展開
4	子どもの権利
5	法体系と行政・財政の仕組み
6	児童家庭福祉を担う機関と施設
7	保育問題と保育施策
8	次世代健全育成と子育て支援
9	母子・父子家庭、母子保健問題と福祉施策
10	児童養護問題と福祉施策
11	心身障害問題と福祉施策
12	情緒・行動に問題のある子どもの福祉施策
13	虐待問題と家庭
14	児童家庭福祉の専門職
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 レポートとテスト100%、計100%

**教科書**  
 シリーズ福祉新時代を学ぶ:新撰「児童家庭福祉福祉」(株)みらい

**参考書・参考資料**  
 特になし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 児童や家庭を取り巻く記事等に気をとめておくこと

授業科目	保育原理				
担当教員	吉田 龍宏				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎		

**授業の目的**  
この授業では、これからの保育についての学びを深める導入として、保育とは何か(保育の理念)、日本の保育制度(法令や内容・運営方法の基準)、現在の保育を支える考えなど、保育学についての基礎的理解を目的とする。

**授業の到達目標**  
・「保育」「遊び」など、保育を学ぶ上でのキー概念の説明し利用できる  
・歴史的な背景を踏まえながら、現在の保育制度や政策を理解する

**自修について(予習・復習内容等)**  
・授業前後にテキストの該当部分についての把握をするとともに(各 2 時間)、授業内で配布又は指示する論著などを自ら進んで読み、理解を深めるとよい(各 2 時間)。  
・他の授業内容と関連が多いので、各自で結びつけ、整理しておくこと

回数	授業計画・内容
1	保育とは何か①～今子育てが難しいのはなぜか～
2	保育とは何か②～集団保育についての理解～
3	日本の保育制度①～幼稚園と保育所～
4	日本の保育制度②～認定こども園と近年の新しい制度～
5	保育の思想と保育制度の変遷～諸外国編～
6	保育の思想と保育制度の変遷～日本編～
7	保育の内容と方法の基準～幼稚園教育要領・保育所保育指針～
8	保育の内容と方法の基準～新しい動き～
9	遊びとは何か
10	遊びの教育的意義
11	保育の具体的展開～クラスづくりとしての身体の響きあい～
12	遊びを豊かにするための保育者の役割
13	保育実践場面以外の保育者の仕事～保護者対応～
14	保育の計画と評価～幼児理解・環境構成・援助～
15	これからの保育者像～高い専門性・誇りと倫理観～
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
授業中の小レポート20%、試験80%、計 100%

**教科書**  
小川博久著「保育原理2001」同文書院  
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」いずれもフレーベル館

**参考書・参考資料**  
日本保育学会編「保育学講座」第1巻～第5巻  
その他授業内で適宜指示をする。

**その他(学生へのアドバイス)**  
この科目は広く、浅く、抽象的になりやすい科目です。授業においても具体例を出しながら講義を進めますが、学生のみなさんも具体例を浮かべながら学びを進めていただきたいと思います。

授業科目	保育実習 I (保育所)				
担当教員	野田美樹・櫻井貴大				
開講時期	—	講義形態	実習	単位数	4単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
保育所の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して体験から学びを深める。また、保育者の業務内容や職業倫理について学ぶことを目的とする  
保育の計画、観察、記録及び自己評価等について理解する。また、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解することを目的とする

**授業の到達目標**  
(1) 保育所の生活の流れや機能、保育者の役割について説明できる  
(2) 乳幼児の言葉や行動の観察を通して、乳幼児についての理解を深め、説明することができる  
(3) 乳幼児の遊びや保育活動に積極的にかかわることができる  
(4) 保育以外の環境整備など、保育者の仕事を自発的協力的に行うことができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
・実習前には予習として、実習事前指導に従い、書類作成、教材準備、実習の手引きの確認などを行う(1 時間)  
・実習後には、毎日必ず実習の振り返りを行い、実習記録の作成を行う(1 時間)  
・実習中は予習、復習を合わせて 2 時間以上を行うこと

回数	授業計画・内容
	<b>【保育所実習の主な内容】</b>
	保育所の役割と機能
	・ 保育所の生活と一日の流れ
	・ 保育所保育指針の理解と保育の展開
	子ども理解
	・ 観察と記録、発達過程、援助やかかわり
	保育内容・保育環境
	・ 保育の計画や発達過程に基く保育内容
	・ 生活や遊びに応じた保育環境、健康・安全な保育環境
	保育の計画、観察、記録
	・ 保育課程と指導計画の理解と活用
	・ 記録に基づく省察・自己評価
	専門職としての保育者の役割と職業倫理
	・ 保育者の業務内容、職業倫理
	・ 職員間の役割分担や連携

**成績評価の方法・基準**  
実習園の評価 70%、提出物 30%、計 100%

**教科書**  
『保育所保育指針解説書』・『幼稚園教育要領解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館  
『保育・教育実習を深める』・『保育・教育実習から学ぶ(第2版)』愛智出版  
『保育の計画と方法(第3版)』同文書院

**参考書・参考資料**  
『実習の手引き』

**その他(学生へのアドバイス)**  
「実習の手引き」に記載されている「実習参加条件」に従って、実習参加の可否を決定する  
実習後、「実習記録」の提出をする  
実習する地域、施設によって、実習に必要な手続きや健康診断などを必要とする場合がある

授業科目	保育実習Ⅰ（施設）				
担当教員	築山高彦・権苅珠・吉村譲・仲田勝美				
開講時期	—	講義形態	実習	単位数	4単位

学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
 これまで学んだ教科の内容を基礎とし、これらを総合的に実践する能力を養うため、児童福祉施設等における養護及び自立支援の実践について、現場での実習を通し体験的に学ぶことを目的とする。

**授業の到達目標**  
 1. 児童福祉施設等の役割や機能、保育士の職務内容について具体的に理解する。  
 2. 子ども（利用者）との関わりを通して対象者への理解を深める。  
 3. 既得の知識・技能を踏まえ、子ども（利用者）および保護者への支援について総合的に学ぶ。  
 4. 保育士としての職業倫理や子ども（利用者）の最善の利益を理解する。

**自修について（予習・復習内容等）**  
 ・実習前にテキスト、実習のてびきを読んで実習に臨む。  
 ・実習中は毎日の記録をしっかり記述するとともに、考察し、テキスト、手引き等を読み、翌日に備える。  
 ・実習後は、実習での体験を整理し、今後取り組むべき課題を明確にする。

**授業計画・内容**  
 実習先の児童福祉施設等において、宿泊（あるいは通所）で実習を行う。実習中は当該施設の施設実習担当職員等の指導のもと、現場で実際に行われている養護や自立支援を観察し、実践を通して以下のことを体験的に学ぶ。  
 ・施設の持つ役割・機能について学ぶ。  
 ・施設で生活する子ども（利用者）の様子を観察し、実践を通して、関わり方や支援について学ぶ。  
 ・施設における保育者（支援員）の職務や役割について学ぶ。  
 ・専門職としての倫理、職員間の役割分担・連携について学ぶ。  
 また、実習期間中に教員の訪問指導を1回以上受ける。

**成績評価の方法・基準**  
 ・実習先施設による評価 70%、  
 ・事前訪問記録および実習記録等 30%、計 100%

**教科書**  
 「新版 保育士を目指す人のための福祉施設実習」愛知県保育実習連絡協議会編 みらい

**参考書・参考資料**  
 ・実習の手引き、『朋』愛知県児童福祉施設長会発行誌  
 ・授業の要点となる資料を配布する。

**その他（学生へのアドバイス）**  
 本学の『岡崎女子短期大学保育士資格取得に係る履修の規定』に基づき、「保育実習指導Ⅰ」の欠席の多い場合や実習に必要な課題などを提出していない場合等、個別指導を行う。指導の結果、改善が見られない場合は、原則、実習に参加できない。

授業科目	保育実習指導Ⅰ（保育所）				
担当教員	野田美樹・櫻井貴大				
開講時期	—	講義形態	演習	単位数	2単位

学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
 保育実習の意義を理解し「保育実習Ⅰ（保育所実習）」に向けて必要な心構えや準備を行う。実習終了後は事後指導を行い「保育実習Ⅱ」に向けた自らの課題を見出すことを目的とする  
 実習の目的・概要や実習のマナーの理解とともに、実習に伴う提出書類や実習記録の記入方法について学ぶ。また、子ども理解、教材研究、保育実技について実際に行いながら実践に備えることを目的とする

**授業の到達目標**  
 (1) 保育実習の意義・目的を理解し、説明できる  
 (2) 実習の内容を理解し、自らの課題を明確に認識できる  
 (3) 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等に努めることができる  
 (4) 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に工夫することができる  
 (5) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標等を文章化することができる

**自修について（予習・復習内容等）**  
 ・実習に必要な書類作成、教材研究、制作物、記録等授業内で説明を受けた後、全て予習・復習が必要となる。毎回1時間行うこと  
 ・止むを得ず欠席した場合は授業と同時間の補充を行う

回数	授業計画・内容
	保育実習の意義 (1) 実習の目的
	(2) 実習の概要
	実習の内容と課題の明確化 (1) 「保育実習Ⅰ」の内容 (2) 「保育実習Ⅰ」の課題
	実習の留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え
	子ども理解 (1) 年齢ごとの発達の理解①0. 1. 2 歳児 年齢ごとの発達の理解②3. 4. 5 歳児 (2) 保育教材（研究・制作） (3) 保育実技（研究・実践練習）
	実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価
	実習の事後指導 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 「保育実習Ⅱ」に向けた課題の明確化

**成績評価の方法・基準**  
 提出物 50%、教材研究・制作物 30%、授業ファイル 20%、計 100%

**教科書**  
 『保育所保育指針解説書』・『幼稚園教育要領解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館  
 『保育・教育実習を深める』・『保育・教育実習から学ぶ（第2版）』愛智出版  
 『保育の計画と方法（第3版）』同文書院

**参考書・参考資料**  
 『実習の手引き』

**その他（学生へのアドバイス）**  
 授業内で配付する資料は必要事項を記入して規定の「授業ファイル」に整理して綴じる。「授業ファイル」は授業終了時に提出すること  
 この授業は、「保育実習Ⅰ」の事前・事後指導を行う。授業に全出席していることが『実習の参加条件』なので欠席をしないこと  
 「特別講義」「交流会」などの実習にかかわる行事に参加する

授業科目	保育実習指導 I (施設)				
担当教員	築山高彦・権苅珠・吉村譲・仲田勝美				
開講時期	一	講義形態	演習	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
施設実習を有意義なものとするために、事前指導において基礎知識・実習に臨む基本態度を修得し、実習に必要な準備を整えることを目的とする。事後指導では実習参加で得られた実践的学びを深めることを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 実践現場の体験を通して、児童福祉施設等の役割や機能、保育士の職務内容について具体的に説明できる。
  2. 既習の知識・技能を踏まえ、子ども（利用者）や保護者への支援の基本を修得できる。
  3. 保育士としての職業倫理や個々の子ども（利用者）の最善の利益を考え行動できる。

- 自修について(予習・復習内容等)**
- ・各回の授業テーマに関連する実習の手引き、テキストの箇所を予習復習する。(毎回1時間)
  - ・授業で指示のあった課題を期日までに提出する。
  - ・授業内容を整理し、必要な関連資料と合わせファイルに綴じておく。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション、施設実習の意義と目的
2	施設実習の概要
3	施設実習の基本事項(子どもの人権、最善の利益等)
4	児童養護施設の見学実習
5	特別授業(障害者支援施設職員)で実習の心構えを学ぶ
6	実習先の決定、実習施設の施設調べ
7	実習における課題の明確化
8	事前訪問、訪問指導等の実習手順と手続き
9	実習で使用する各種記録用紙、記録の書き方
10	実習全体の流れを理解する(DVD 視聴を通して)
11	実践事例で子ども(利用者)への関わり方の理解する
12	施設実習の留意事項の最終確認
13	施設実習の振り返り(1)実習の自己評価
14	施設実習の振り返り(2)今後の課題の明確化
15	施設実習の振り返り(3)実習の総括と発表
16	なし

- 成績評価の方法・基準**
- ・大学で行う事前指導における授業での提出課題40%、
  - ・実習後の最終課題等60%、計100%

**教科書**  
「新版 保育士を目指す人のための福祉施設実習」愛知県保育実習連絡協議会編 みらい

- 参考書・参考資料**
- ・実習の手引き、『朋』愛知県児童福祉施設長会発行誌
  - ・授業の要点となる資料を配布する。

- その他(学生へのアドバイス)**
- ・実習に向けてのレポート課題、書類をきちんと作成し、期日までに提出すること。
  - ・事前指導等の授業には必ず出席し、課題等を提出することで実習参加の資格が与えられる。
  - ・テキスト、実習の手引き等授業に必要なものは毎回持参する。

授業科目	家庭支援論				
担当教員	太田 二郎				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		○	◎	◎	

**授業の目的**  
「子ども受難時代」と言われるように、現代社会は子育てをめぐる問題が複雑・多様化しており、「社会的子育て支援」が必要とされている。子どもの幸せを実現するための「家庭支援」とは、どうあるべきか。また、家族や家庭が抱える幾多の問題解決にどのような技法を用いて関わるべきかを一緒に学んでいく。

- 授業の到達目標**
1. 子どもにとって最大の人権侵害は「子ども虐待」である。近年、家庭という密室で行なわれる「子ども虐待」にどう対処すべきなのかその具体的方法を理解する
  2. 「子ども虐待」の発見・対処方法などについて具体的に学ぶ。
  3. 家庭を失った子どもたちの声なき声を聞きながら保育者としてのセンスを磨いていく。

- 自修について(予習・復習内容等)**
- ・授業の冒頭、前回の授業内容の振り返りを行うので、質問される内容について回答できるよう1時間は復習をしておくこと。
  - ・講義ノートが現場に出てからのマニュアルとなるようノート整理を毎回行うこと。

回数	授業計画・内容
1	子どもにとって“家族とは”
2	家庭の果たすべき機能と役割について
3	地域社会の変容と子育て支援
4	親・家族が抱える子育ての悩み
5	男女共同参画社会とワークライフバランス
6	保育士に期待される家庭支援とその原理
7	子育て支援サービスの概要並びにその課題
8	保育所入所児童の家庭支援
9	ケースワーク原理原則
10	面接技法(非効果的コミュニケーションのとり方)
11	地域の育てと社会教育
12	保育所と他の児童福祉施設等関係機関との連携
13	要保護児童(子ども虐待)への関わり
14	子ども虐待の家庭支援方法
15	まとめ
16	なし

- 成績評価の方法・基準**  
試験70%、講義ノート30%、計100%

- 教科書**
- ・「現場が教科書」との考えから、テキストは使用しない。
  - ・板書を書き取ることで、現場で使えるマニュアルとなる。

**参考書・参考資料**

- その他(学生へのアドバイス)**  
「児童憲章」を持ち出すまでもなく、子どもは家庭で正しい愛情と技術をもって育てられるべきである。正しい愛情とは、技術とは何かを一緒に学んでいく。

授業科目	家庭支援論				
担当教員	細江 逸雄				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		○	◎	◎	

**授業の目的**  
 保育者として、保護者や子育て家庭への支援が適切に行えるように、現代の家庭が置かれている状況や抱える問題を理解する。また様々な子育て支援の関係機関の連携を理解し、支援者としての基本的態度を修得する。

**授業の到達目標**  
 (1) 家庭の意義とその機能を理解し説明できる。  
 (2) 子育て家庭を取り巻く状況及び支援体制を理解し説明できる。  
 (3) 多様な支援の展開と関係機関との連携を理解し説明できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 各回の授業について、内容の整理及び疑問点、問題点を各自把握し理解を深める。このため15回の授業後復習(1時間)及び授業内容に関連する事項について、新聞、テレビ等により理解を深める。毎日(1時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション(家庭支援とは)
2	家庭の意義と機能
3	子育て家庭を取り巻く社会的状況 1 現代の子育て家庭における人間関係
4	子育て家庭を取り巻く社会的状況 2 地域社会の変容と家庭支援
5	子育て家庭を取り巻く社会的状況 3 児童虐待 夫婦間暴力(DV)
6	家庭支援の必要性
7	少子化対策の変遷と子育て家庭への支援体制
8	子育て支援サービスの概要 課題
9	子育て支援における関係機関の連携
10	保育士が行う家庭支援の原理
11	支援の実際 1 保育園通園児の家庭への支援
12	支援の実際 2 地域子育て家庭への支援
13	支援の実際 3 特別な配慮を要する家庭への支援
14	支援の実際 4 児童福祉施設での家庭支援
15	まとめ(全体の復習)
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 課題(2回×20%)=40%、期末試験60%、計100%

**教科書**  
 使用しない。  
 授業内で適宜資料を配布する。

**参考書・参考資料**  
 「保育所指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館  
 「保育と家庭支援」株式会社 みらい

**その他(学生へのアドバイス)**  
 特になし

授業科目	保育課程論				
担当教員	矢藤 誠慈郎				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	○		◎	◎	

**授業の目的**  
 第一に、カリキュラムの編成及び指導計画の作成について基礎的事項を理解し、第二に、実際に指導計画を立案する方法を習得し、第三に、保育・教育の理論を、計画を通じて実践に具体化し、それを振り返りながら改善を進めていくカリキュラム・マネジメントのダイナミズムについて実践的に理解することを目的とする。

**授業の到達目標**  
 ①教育・保育の質の向上に資する保育の計画と評価について説明できる。  
 ②カリキュラムに関わる基礎的概念について説明できる。  
 ③カリキュラムの編成と指導計画の作成の実際について、具体的に考察し記述できる。  
 ④計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的に理解し説明できる。  
 ⑤保育者の専門性としてのカリキュラム・マネジメントについて理解し記述できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ①教科書の次回の授業箇所を必ず読んで重要な点に下線を引く。(1.75時間×13回)  
 ②返却されたワークシートを授業のノートを参照して見直す。(1.75時間×13回)  
 ③期末レポートについては、文献の調査を十分に行い執筆する。(15時間)

回数	授業計画・内容
1	ガイダンス—受講ルール、授業の目的と計画、評価の基準と方法
2	学びのイノベーション
3	コンピテンシーの育成
4	これからの教育課程①概論
5	これからの教育課程②保育・幼児教育
6	これからの教育課程③小学校
7	カリキュラム・マネジメントの基礎
8	アクティブ・ラーニングの姿①保育・幼児教育
9	アクティブ・ラーニングの姿②小学校との接続
10	求められる資質・能力
11	教育課程・全体計画のデザイン
12	教育課程・全体計画のマネジメント
13	日々の教育活動のカリキュラム・マネジメントの方法
14	保育者の専門性としてのカリキュラム・マネジメント
15	学修の振り返りとまとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 授業各回のワークシート(20%)、期末レポート(80%)、計100%

**教科書**  
 松尾知明『未来を拓く資質・能力と新しい教育課程—求められる学びのカリキュラム・マネジメント』学事出版

**参考書・参考資料**  
 「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」

**その他(学生へのアドバイス)**  
 予習を行っている前提で授業を行うので、教科書を必ず読んで、質問に答えられるように準備しておいてください。

授業科目	乳児保育 I				
担当教員	林 陽子				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
「乳児保育 I」では、保育所をはじめとする保育施設における乳児保育の歴史と意義を理解することを目的とする。また、3歳未満児の養護と教育について基本的な知識と技術を身につけることを目的とする。

**授業の到達目標**  
1. 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等が説明できる。  
2. 保育所及びその他の保育施設における乳児保育の現状と課題が説明できる。  
3. 3歳未満児の発育・発達分かり、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びに必要な基本的な知識と技術を身につける。

**自修について(予習・復習内容等)**  
予習: 前の授業で提示された「次回の授業内容予定」に関して、テキスト・資料等に目を通しておくこと  
復習: 授業後は、学んだ内容を整理し疑問を明らかにしておくこと  
常時: 乳児保育に関する参考書や資料に関心をもち、興味のある情報をファイルしておくこと  
予習、復習、常時合わせて毎回 1 時間

回数	授業計画・内容
1	乳児保育とは何か—その理念と歴史 役割及び機能—
2	乳児保育の現状と課題 (1)乳児や家庭を取り巻く環境 (2)乳児保育の場: 保育所 家庭的保育等 乳児院 (3)子育て支援の場
3	3歳未満児の保育に必要な事項 —基本的な知識・技術、援助・関わり、保育観—
4	6か月未満児の発達と保育内容(養護と基本的生活及び遊び)
5	6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容(養護と基本的生活)
6	6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容(遊び)
7	1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容(養護と基本的生活)
8	1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容(遊び)
9	2歳児の発達と保育内容(養護と基本的生活)
10	2歳児の発達と保育内容(遊び)
11	3歳児の発達と保育内容(養護と基本的生活)
12	3歳児の発達と保育内容(遊び)
13	保育の環境構成
14	実践事例から学ぶ乳児保育
15	乳児保育担当保育者に求められる資質と能力
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
提出物30%、小テスト20%、期末試験50%、計100%

**教科書**  
必携テキスト:①『資料で分かる 乳児の保育新時代』乳児保育研究会編 ひとなる書房  
②『保育所保育指針解説書』厚生労働省編

**参考書・参考資料**  
①『保育者へのステージ3 乳児と楽しむ手作りおもちゃ』林陽子他 愛智出版  
②『保育用語辞典』森上史朗他 ミネルヴァ書房

**その他(学生へのアドバイス)**  
「乳児保育 I」は「演習科目」です。問題意識をもって自ら学ぶ科目です。広い視野と多様な方向性で「3歳未満児の育ち」を考えていきましょう。予習・復習を忘れずに、規律ある態度を大切に、学び合う関係を作りましょう。

授業科目	乳児保育 I				
担当教員	河合 悦子				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
「乳児保育 I」では、保育所をはじめとする保育施設における乳児保育の歴史と意義を理解することを目的とする。また、3歳未満児の養護と教育について基本的な知識と技術を身につけることを目的とする。

**授業の到達目標**  
1. 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等が説明できる。  
2. 保育所及びその他の保育施設における乳児保育の現状と課題が説明できる。  
3. 3歳未満児の発育・発達分かり、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びに必要な基本的な知識と技術を身につける。

**自修について(予習・復習内容等)**  
予習: 前の授業で提示された「次回の授業内容予定」に関して、テキスト・資料等に目を通しておくこと  
復習: 授業後は、学んだ内容を整理し疑問を明らかにしておくこと  
常時: 乳児保育に関する参考書や資料に関心をもち、興味のある情報をファイルしておくこと  
予習、復習、常時合わせて毎回 1 時間

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション・乳児保育の理念・意義
2	保育ニーズにおける乳児保育の考え方
3	保育現場に求められる保育者の資質と保育の質
4	乳児の発達の特性と保育(0歳児)発達の課題と対応 遊びと環境
5	基本的生活の内容と方法(0歳児)事例
6	乳児の発達の特性と保育(1歳児)発達の課題と対応 遊びと環境
7	基本的生活の内容と方法(1歳児)事例
8	乳児の発達の特性と保育(2歳児)発達の課題と対応遊びと環境
9	基本的生活の内容と方法(2歳児)事例検討
10	乳児の発達の特性と保育(3歳児)発達の課題と対応遊びと環境
11	基本的生活の内容と方法(3歳児)事例
12	発達に応じた遊具・玩具について理解
13	発達に応じた手作り玩具の作成
14	製作物の紹介と実演(対象年齢、遊具の目的と特徴)
15	全体のまとめ
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
提出物 20%、小テスト 30%、期末試験 50%、計 100%

**教科書**  
テキスト:『乳児の保育新時代』乳児保育研究会編 ひとなる書房

**参考書・参考資料**  
参考文献:『保育所保育指針』  
随時資料を配布する

**その他(学生へのアドバイス)**  
時間を守る、約束を守る、人に迷惑をかけない等、基本的な授業態度を身につけ、意欲的に授業に臨むこと。

授業科目	乳児保育Ⅱ				
担当教員	林 陽子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
「乳児保育Ⅰ」で学んだことを基盤に、3歳未満児の生活と遊びを創造するために必要な具体的な知識と技術を身につけることを目的とする。さらに実践記録の学びを通して、知識と技術を実践力に高めることを目指す。併せて乳児保育の今日的な状況を理解しより専門性を高めることを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 乳児保育の指導計画の意義を理解し作成することができる。
  2. 指導計画の展開に必要な具体的な保育の内容や援助の方法、環境構成等を理解し実際に作成することができる。
  3. 観察・記録等について学び実際に観察記録や実践記録を記述することができる。
  4. 保護者や関係機関との連携について学ぶとともに、乳児保育を巡る今日の状況や課題を理解しその解決に向けて意見を述べるができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
予習: 前の授業で提示された「次回の授業内容予定」に関して、テキスト・資料等に目を通しておくこと  
復習: 授業後は、学んだ内容を整理し自ら得た資料や情報とともにファイルしておくこと  
常時: 3歳未満児の生活や遊びを豊かにするであろうグッズや玩具、文化財等に目を向け、情報として保存しておくこと  
予習、復習、常時合わせて毎回1時間

回数	授業計画・内容
1	保育所における3歳未満児の一日
2	保育の計画の種類—保育課程から個別の計画まで—
3	保育の記録—DVDを手掛かりに—
4	指導計画の作成—0歳児前半の日案と個別の計画—
5	指導計画の作成—0歳児後半の日案と個別の計画—
6	指導計画の作成—1歳児の日案と個別の計画—
7	指導計画の作成—2歳児の週案と月案—
8	0歳児の快適な基本的生活を支える具体的な方法と環境
9	1, 2歳児の快適な基本的生活を支える具体的な方法と環境
10	3歳未満児の遊びの実際:理論編
11	3歳未満児の遊びの実際:実践編(手作りおもちゃ)
12	3歳未満児の遊びの実際:実践編(紙芝居と絵本)
13	3歳未満児の遊びの実際:実践編(コーナー作り)
14	乳児保育における連携—保護者とのパートナーシップ
15	保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
提出物30%、小テスト20%、期末試験50%、計100%

**教科書**  
必携テキスト:①『資料で分かる 乳児の保育新時代』乳児保育研究会編 ひとなる書房  
②『保育所保育指針解説書』厚生労働省編

**参考書・参考資料**  
①『保育者へのステージ3 乳児と楽しむ手作りおもちゃ』林陽子他 愛智出版  
②『保育用語辞典』森上史朗他 ミネルヴァ書房

**その他(学生へのアドバイス)**  
「乳児保育Ⅱ」は「演習科目」です。自ら求め自ら身につけていく科目です。「安心感と幸福感に満ちた保育のあり方」を考えていきましょう。規律ある態度を大切に、学び合う関係を作りましょう。

授業科目	乳児保育Ⅱ				
担当教員	河合 悦子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
「乳児保育Ⅰ」で学んだことを基盤に、3歳未満児の生活と遊びを創造するために必要な具体的な知識と技術を身につけることを目的とする。さらに実践記録の学びを通して、知識と技術を実践力に高めることを目指す。併せて乳児保育の今日的な状況を理解しより専門性を高めることを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 乳児保育の指導計画の意義を理解し作成することができる。
  2. 指導計画の展開に必要な具体的な保育の内容や援助の方法、環境構成等を理解し実際に作成することができる。
  3. 観察・記録等について学び実際に観察記録や実践記録を記述することができる。
  4. 保護者や関係機関との連携について学ぶとともに、乳児保育を巡る今日の状況や課題を理解しその解決に向けて意見を述べるができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
予習: 前の授業で提示された「次回の授業内容予定」に関して、テキスト・資料等に目を通しておくこと  
復習: 授業後は、学んだ内容を整理し自ら得た資料や情報とともにファイルしておくこと  
常時: 3歳未満児の生活や遊びを豊かにするであろうグッズや玩具、文化財等に目を向け、情報として保存しておくこと  
予習、復習、常時合わせて毎回1時間

回数	授業計画・内容
1	保育の記録と指導計画
2	乳児保育の実態と一日の流れ
3	指導計画の項目のおさえ(子どもの姿、ねらい、内容、援助)
4	指導計画の作成(0歳児、日々の記録)
5	指導計画の作成(1, 2歳児個別記録)
6	指導計画の作成(1, 2歳児月指導計画)
7	事例検討(子どものかみつき対応と保育)
8	事例検討(食事・おやつ援助のあり方)
9	育児体験(人形を使って、おぶ、抱く、おむつ換え)
10	保護者支援(保護者との信頼関係の構築、パートナーシップ)
11	家庭・地域・他機関との連携(地域の子育てシステムの理解)
12	保育者の専門性と職員の協働(園における連携の実態)
13	乳児保育の新しい動向と最新の研究成果に学ぶ
14	乳児保育の展望(保育現場の今日的課題)
15	全体のまとめ
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
提出物30%、小テスト20%、試験50%、計100%

**教科書**  
テキスト:『乳児の保育新時代』乳児保育研究会編 ひとなる書房

**参考書・参考資料**  
『保育所保育指針』  
随時資料を配布する

**その他(学生へのアドバイス)**  
時間を守る、約束を守る、人に迷惑をかけない等、基本的な授業態度を身につけ、意識的に授業に臨む。

授業科目	児童文学				
担当教員	鈴木 穂波				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 児童文学の古典とされる作品から現代の作品まで、さまざまな児童文学作品を読むことによって、子どもにとっての文学の意味を考えると共に、児童文学作品の中に描かれている子どもや子どもと関わる大人の姿から学ぶ。また、多くの児童文学作品に触れ、その魅力を伝えるための技術を修得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
 ①児童文学を理解するための基礎的な知識を身に付ける。  
 ②さまざまな児童文学作品に興味を持ち、主体的に選び、探し、読むことができる。  
 ③児童文学作品を的確に分析し、その魅力を伝えることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 小テスト、筆記試験準備のため、20 時間  
 ブックレビュー作成(読書時間を含む)や児童文学作品介绍(ビブリオバトル)準備のため 40 時間

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション、児童文学とは
2	伝承の文学
3	わらべうたと詩
4	絵本(1)絵本とは
5	絵本(2)赤ちゃんと絵本
6	絵本(3)物語絵本
7	絵本(4)科学絵本
8	童話と幼年文学
9	冒険物語
10	動物物語
11	日常のファンタジー
12	異世界のファンタジー
13	子どもの本の周辺
14	児童文学作品介绍する(ビブリオバトル)
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 小テスト 40%、課題 30%、筆記試験 30%、計 100%

**教科書**  
 三宅興子・多田昌美著『児童文学 12 の扉をひらく』翰林書房

**参考書・参考資料**  
 香曾我部秀幸・鈴木穂波編・著『絵本をよむこと―「絵本学」入門―』翰林書房  
 その他随時提示

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業時間外の課題として、児童文学作品を読んでまとめるブックレビューを作成する。図書館を活用して、主体的に作品を探して読むこと。成果の発表として、その中から選んだ作品を紹介し合うビブリオバトルを行う。

授業科目	基礎音楽 I				
担当教員	妹尾・平尾・滝沢・市川・小野・原田・堀・山内				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 この授業では、保育者として音楽の楽しさを子どもに伝え、共に活動していくために必要とされる基礎的な演奏技術や音楽的知識、演奏難易度の低い幼児曲の音楽的構成について深く理解し、弾き歌いで必要とされるピアノの技術や歌唱技術における基礎的な技能や表現を習得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
 1. バイエル教則本の楽語について説明することができ、バイエル 100 番まで演奏することができる。  
 2. バイエル終了者は、練習曲以外のピアノ曲を暗譜で演奏することができる。  
 3. 簡易伴奏法のためのコードネーム(ハ長調)について、見譜で演奏することができる。  
 4. 幼児曲(子どものうた村 A レベルの春・夏)について、暗譜で弾き歌いすることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・音楽的な知識、技術、表現等における疑問点、問題点を各自把握し、効率的な練習(1 時間以上)を毎日継続すること。  
 ・課題曲の歌詞、楽語、指使い等の把握と、演奏の表現について必ず予習・復習等を行うこと。  
 ・ゆっくり正確に楽譜通り演奏できるよう心がけましょう。

回数	授業計画・内容
1	授業ガイダンス
2	楽譜の読み方
3	バイエル・幼児曲(こいのぼり等)・音楽理論(音符の種類)
4	バイエル・幼児曲(ちょうちよう等)・音楽理論(拍子・リズム)
5	バイエル・幼児曲(どんぐりころころ等)・音楽理論(速度を表す楽語)
6	バイエル・幼児曲(ぶんぶんぶん等)・音楽理論(強弱を表す楽語)
7	バイエル・幼児曲(かたつむり等)・音楽理論(表情を表す楽語)
8	前期中間まとめ・今後の学習課題について
9	バイエル・幼児曲(たなばたさま等)・音楽理論(演奏順序を表す楽語)
10	バイエル・幼児曲(あさのうた等)・音楽理論(音程)
11	バイエル・幼児曲(きんぎょのひるね等)・コード(コードの種類と調性)
12	バイエル・幼児曲(生活の歌から)・コード(ハ長調の主要三和音)
13	バイエル・幼児曲(どうぶつの歌から)・コード(ハ長調のコード練習)
14	復習と確認
15	前期末まとめ・後期に向けた学習課題について
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 予習・復習した曲の確認 40%、中間・期末試験 60%、計 100%

**教科書**  
 「子どものうた村 保育の木」(ドレミ楽譜)  
 「みんなで手遊び One・Two・トン」(ドレミ楽譜)  
 「子どもの表現活動を導くコードネームによる伴奏法」(圭文社)

**参考書・参考資料**  
 バイエル教則本、ピアノキャンパス等

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業では、ML システムを活用した集団授業と個人指導を行います。

授業科目	基礎音楽Ⅱ				
担当教員	妹尾・平尾・市川・小野・麓				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
この授業では、「基礎音楽Ⅰ」での学修を踏まえ、保育者として音楽の楽しさを子どもに伝え、共に活動していくために必要とされる専門的な演奏技術や音楽的知識、様々な幼児曲の音楽的構成について深く理解し、豊かな音楽の表現に結び付くための、弾き歌い、歌唱、ピアノ演奏における技術を習得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
1. バイエル終了者は、練習曲以外のピアノ曲を暗譜で演奏することができる。  
2. 簡易伴奏法のためのコードネーム(へ長調、ト長調)について、見譜で演奏することができる。  
3. 幼児曲(子どものうた村 A レベルの秋・冬)について、暗譜で弾き歌いすることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
・音楽的な知識、技術、表現等における疑問点、問題点を各自把握し、効率的な練習(1時間以上)を毎日継続すること。  
・一回の授業につき、課題曲の歌詞、楽語、指使い等の把握と、演奏の表現について必ず予習・復習等を行うこと。  
・ゆっくり正確に楽譜通り演奏できるよう心がけましょう。

回数	授業計画・内容
1	授業ガイダンス
2	ピアノ曲・幼児曲(せんせいとおともだち等)・コード(へ長調の主要三和音)
3	ピアノ曲・幼児曲(大きなくりの木の下で 等)・コード(へ長調の練習)
4	ピアノ曲・幼児曲(とんぼのめがね等)・簡易伴奏(へ長調コードの応用)
5	ピアノ曲・幼児曲(まつぼっくり等)・コード(ト長調の主要三和音)
6	ピアノ曲・幼児曲(こぎつね等)・コード(ト長調の練習)
7	ピアノ曲・幼児曲(おかえりのうた等)・簡易伴奏(ト長調コードの応用)
8	後期中間まとめ・今後の学習課題について
9	学生音楽祭(音楽鑑賞)
10	ピアノ曲・幼児曲(ジングルベル等)・コード(まとめ)
11	ピアノ曲・幼児曲(たきび等)・簡易伴奏(ハ長調の幼児曲)
12	ピアノ曲・幼児曲(ぞうさん等)・簡易伴奏(へ長調の幼児曲)
13	ピアノ曲・幼児曲(おべんとう等)・簡易伴奏(ト長調の幼児曲)
14	ピアノ曲・幼児曲(さよならのうた・手をたたきましょう等)・簡易伴奏(応用)
15	後期末まとめ・「幼児音楽Ⅰ」に向けた学習課題について
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
予習・復習した曲の確認 40%、中間・期末試験 60%、計 100%

**教科書**  
「子どものうた村 保育の木」(ドレミ楽譜)  
「みんなで手遊び One・Two・トン」(ドレミ楽譜)  
「子どもの表現活動を導くコードネームによる伴奏法」(圭文社)

**参考書・参考資料**  
バイエル教則本、ピアノキャンパス等

**その他(学生へのアドバイス)**  
授業では、MLシステムを活用した集団授業と個人指導を行います。

授業科目	幼児造形Ⅰ				
担当教員	米窪 洋介				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
子どもの造形表現活動を活発にするため、造形の意義・目的や子どもの造形表現の発達段階を理解するとともに、基礎的な造形表現に関する指導法を身に付けることをねらいとする。また、造形活動を展開させる具体的な言語表現の知識や技能を学ぶことを目的とする。

**授業の到達目標**  
1. 子どもの造形表現活動の意義・目的を理解することができる。  
2. 子どもの造形的発達段階を理解することができる。  
3. 基礎的な造形表現に関する指導法を考えることができる。  
4. 造形活動を展開させるための言語表現ができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
・毎授業後に振り返りをワークシートに記入すること(0.5時間)  
・各課題終了後には、ワークシートをまとめること(合計6時間)  
・最終授業後に全15回の振り返りをレポートにまとめること(1.5時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	技法あそび(1)マーブリング
3	技法あそび(2)スパッタリング
4	技法あそび(3)パチック、ドリッピング
5	技法あそび(4)デカルコマニー、ストリングデザイン
6	技法あそび(5)フロッターージュ
7	技法あそび(6)絵本づくり①デザイン
8	技法あそび(7)絵本づくり②制作
9	技法あそび(8)絵本づくり③仕上げ
10	モビール(1)デザイン
11	モビール(2)制作
12	モビール(3)仕上げ
13	お面づくり(1)デザイン
14	お面づくり(2)制作
15	お面づくり(3)仕上げ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
ファイル(ワークシート、期末レポート)50%、提出作品 50%、計 100%

**教科書**  
「造形のじかん」愛智出版  
**参考書・参考資料**  
適宜、授業内で配布

**その他(学生へのアドバイス)**  
・絵の具等を使用するため、汚れてもよい服装で受講すること  
・オリエンテーションで指示する形式のファイルを用意すること  
・構想を練るなど、演習を円滑に行うための準備を行うこと。場合によっては、材料の調達を行うこと  
・使用する用具や作品保管場所の関係で、授業計画の変更が出た場合は授業内で通知する

授業科目	幼児造形 I				
担当教員	横田 典子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**

この授業は、様々な演習課題を通して、子どもの造形活動の意義や目的について理解を深めると同時に、子どもの造形的発達段階についての知識を得ることを目的とする。

また、使用する材料や用具の特質を活かした製作法を身につけ、材料や用具の選択、準備など造形活動の指導法についても考える。

- 授業の到達目標**
1. 子どもの造形活動の意義・目的について説明することができる。
  2. 子どもの造形的発達段階について説明することができる。
  3. 使用する材料や用具の特質を活かして製作をすることができる。
  4. 造形活動の指導法について考えることができる。

- 自修について(予習・復習内容等)**
- ・ 毎授業後に振り返りをワークシートに記入すること (0.5時間)
  - ・ 各課題終了後には、ワークシートをまとめること (合計 6時間)
  - ・ 最終授業後に全 15 回の振り返りをレポートにまとめること (1.5時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション (子どもの造形的発達段階について)
2	マーブリング (製作方法と現場での活用について、実践)
3	スパッタリング (製作方法と現場での活用について、実践)
4	パチック、ドリッピング (製作方法と現場での活用について、実践)
5	デカルコマニー、ストリングデザイン (製作方法と現場での活用について、実践)
6	フロッタージュ (製作方法と現場での活用について、実践)
7	絵本づくり① (製作方法と現場での活用、デザイン)
8	絵本づくり② (製作)
9	絵本づくり③ (仕上げ)
10	モビール① (製作方法と現場での活用について、デザイン)
11	モビール② (製作)
12	モビール③ (仕上げ)
13	おめん① (製作方法と現場での活用について、土台製作)
14	おめん② (装飾)
15	おめん③ (仕上げ)
16	なし

**成績評価の方法・基準**

ファイル(ワークシート、期末レポート)50%、提出作品 50%、計 100%

**教科書**

「造形のじかん」愛智出版

**参考書・参考資料**

適宜、授業内で配布

- その他(学生へのアドバイス)**
- ・ 絵の具等を使用するため、汚れてもよい服装で受講すること
  - ・ オリエンテーションで指示する形式のファイルを用意すること
  - ・ 構想を練るなど、演習を円滑に行うための準備を行うこと。場合によっては、材料の調達を行うこと

授業科目	基礎造形				
担当教員	米窪 洋介				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**

造形活動を通して、保育者としての基礎的な技術技能を身につけるとともに、さまざまな素材による表現手法を習得することをねらいとする。また、子どもと共にものを作ることの喜びを共感するために、「創作することの楽しさ」や「表現することの素晴らしさ」などを、自らの造形活動を通して体感することを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 造形活動における基礎的な技術技能を用いて製作することができる。
  2. 材料の特質や用具・道具類の使用法を説明することができる。
  3. 創作活動の意義や目的を理解することができる。

- 自修について(予習・復習内容等)**
- ・ 毎授業後に振り返りをワークシートに記入すること (0.5時間)
  - ・ 各課題終了後には、ワークシートをまとめること (合計 6時間)
  - ・ 最終授業後に全 15 回の振り返りをレポートにまとめること (1.5時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション (造形活動の意味や目的について)
2	切り紙
3	切染め紙
4	手紙づくり① (製作方法と現場での活用について、紙すき)
5	手紙づくり② (スタンプ制作)
6	手紙づくり③ (封筒づくり)
7	段ボール用いた制作① (製作方法と現場での活用について、デザイン)
8	段ボールを用いた制作② (制作)
9	段ボールを用いた制作③ (着色)
10	段ボールを用いた制作④ (仕上げ)
11	粘土あそび (粘土の特徴と現場での活用について、実践)
12	土鈴①成形
13	土鈴②仕上げ
14	マグカップ①成形
15	マグカップ②仕上げ
16	なし

**成績評価の方法・基準**

ファイル(ワークシート、期末レポート)50%、提出作品 50%、計 100%

**教科書**

「造形のじかん」愛智出版

**参考書・参考資料**

適宜授業内で配布

- その他(学生へのアドバイス)**
- ・ 絵の具等を使用するため、汚れてもよい服装で受講すること
  - ・ オリエンテーションで指示する形式のファイルを用意すること
  - ・ 構想を練るなど、演習を円滑に行うための準備を行うこと。場合によっては、材料の調達を行うこと

授業科目	幼児体育 I				
担当教員	山下晋・中田伸江				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 幼児期は運動あそびを通して、体をコントロールする能力を身につける時期であり、生涯の運動習慣に大きく影響を及ぼす。そこで、幼児期の運動あそびに関する基本的な内容を理解し、楽しみながら体力及び技能を高めることを目的とした運動あそびの指導計画の作成や基本的な環境構成、安全管理に配慮した指導法を身につける。また、幼児を対象にした運動あそびの実践を通して、適切な援助のあり方を体得する。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもの運動特性（基本的な能力や技能）について説明することができる。  
 (2) 運動あそびの指導計画の作成や基本的な環境構成について考えや意見を示すことができる。  
 (3) 安全管理に配慮した援助の仕方について工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 毎時終了後、ワークシートに授業内容(運動遊びの知識や援助・補助のあり方)の振り返りと、継続的な身体活動や基本運動技能の習得を合わせて1週間当たり1時間行うこと。

回数	授業計画・内容
1	ガイダンスと～幼児の運動あそび～
2	仲間づくりのあそび
3	フープを使ったあそび
4	跳び箱を使ったあそび
5	平均台を使ったあそび
6	鉄棒を使ったあそび
7	マットを使ったあそび (1) 前回りと後回り
8	マットを使ったあそび (2) ソフトマット
9	トランポリンを使ったあそび
10	タイヤチューブを使ったあそび
11	運動あそびの指導計画 (1) サーキットあそび
12	運動あそびの指導実践 (1) 年少児
13	運動あそびの指導実践 (2) 年中児
14	運動あそびの指導実践 (3) 年長児
15	まとめ (全体の復習)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 ワークシート(期末試験レポートを含む) 60%, 運動技能 40%, 計 100%

**教科書**  
 ワークシート(授業ノート)を配布する。

**参考書・参考資料**  
 ・「体育あそびアラカルト」(榎岡義明編著, 朱鷺書房)  
 ・「運動遊び」(井上勝子編著, 建帛社)  
 ・「運動あそび指導百科」(前橋明著, ひかりのくに)

**その他(学生へのアドバイス)**  
 毎時、運動のできる服装(ジャージ及び体育館シューズ)で受講し、水分補給の準備をすること。

授業科目	幼児体育 II				
担当教員	山下晋・中田伸江				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	○

**授業の目的**  
 「幼児体育 I」で学んだことを基礎として、幼児を対象にした「楽しみながら体力及び技能を高めるための運動あそびのプログラム」を作成する。このプログラムを実践及び評価(成功・失敗の要因を分析)するプロセスを通して、指導計画の作成や基本的な環境構成、安全管理に配慮した指導や適切な援助のあり方、さらに、よりよいプログラム作成の方法を修得する。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもを対象にした運動あそびの環境構成や、援助のあり方について説明することができる。  
 (2) 自ら運動あそびのプログラムを作成し、実践した結果について考えや意見を示すことができる。  
 (3) 結果を分析し、よりよいプログラム作成のために、個人またはグループで創意工夫をすることができる。  
 (4) 安全管理に配慮した援助の仕方について工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 毎時終了後、ワークシートに授業内容(運動遊びの知識や援助・補助のあり方)の振り返りと、継続的な身体活動や基本運動技能の習得を合わせて1週間当たり1時間行うこと。

回数	授業計画・内容
1	なわ(長なわ・短なわ)を使ったあそび
2	パラバルーンを使ったあそび
3	ボールを使ったあそび
4	運動あそびの指導計画 (2) コーナーあそび
5	運動あそびの指導実践 (4) 年少児
6	運動あそびの指導実践 (5) 年中児
7	運動あそびの指導実践 (6) 年長児
8	いろいろなゲームあそび (1) 運動量を増やす工夫
9	いろいろなゲームあそび (2) 歌に合わせたあそび
10	いろいろなゲームあそび (3) 鬼あそびを中心に
11	身近な素材(新聞など)を使ったあそび
12	運動あそびの指導計画 (3) オリジナルあそび
13	運動あそびの指導実践 (7) 1~3 グループの発表
14	運動あそびの指導実践 (8) 4~6 グループの発表
15	まとめ (全体の復習)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 ワークシート(期末試験レポートを含む) 60%, 運動技能 40%, 計 100%

**教科書**  
 ワークシート(授業ノート)を配布する。

**参考書・参考資料**  
 ・「体育あそびアラカルト」(榎岡義明編著, 朱鷺書房)  
 ・「運動遊び」(井上勝子編著, 建帛社)  
 ・「運動あそび指導百科」(前橋明著, ひかりのくに)

**その他(学生へのアドバイス)**  
 毎時、運動のできる服装(ジャージ及び体育館シューズ)で受講し、水分補給の準備をすること。

授業科目	パフォーミングボディ				
担当教員	山田 悠莉				
開講時期	前・後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 保育の現場において、心とからだと共に深く豊かに開放され、生き生きと動くからだの獲得をするために、ダンス（身体表現）の領域からアプローチする。ひらかれた身体を用いて、温かくしなやかに子どもとコミュニケーションを取ることのできる保育者の育成を目指す。自己の身体と向き合い、自由に身体を使って動くことの楽しさ、技術を身につけ、身体表現についての理解を深める。

**授業の到達目標**  
 (1) 保育における身体表現の特性について理解し、自らの言葉で説明することができる  
 (2) 仲間とコミュニケーションを図りながら、身体を使ってイメージや思いを自由に表現することができる  
 (3) 様々な表現に興味関心を持ち、子どもや仲間の表現を鑑賞し、表現の多様性を理解する

**自修について(予習・復習内容等)**  
 常に自分の感性を磨く努力をする。指示があった場合は題材について調べ学習、資料集めをする(30分から1時間程度)  
 毎授業後に必ず、授業の振り返りを行う。授業で行った部分のテキストを読み、ワークシートを記入する(30分から1時間程度)

回数	授業計画・内容
1	「保育者に求められるからだ」について
2	身体的コミュニケーション(模倣)
3	手遊び、わらべ歌を使って
4	動きから生まれる表現
5	リズムダンス創作(基礎、創作)
6	リズムダンス創作(発表)
7	日常的な物を使った表現
8	歌、音を手掛かりとした表現
9	絵本、文学作品を手掛かりとした表現
10	様々な表現方法を知る(鑑賞)
11	イメージから生まれる表現
12	人とのかかわりをねらいとした表現(グループ創作①)
13	人とのかかわりをねらいとした表現(グループ創作②)
14	表現発表会
15	実技テストまとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 試験 40%、中間テスト 20%、毎時のワークシート 30%、レポート 10%、計 100%

**教科書**  
 「乳幼児のダンス ABC」猪崎弥生・山田悠莉(一二三書房)

**参考書・参考資料**  
 なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業は必ず運動に適した服装で参加すること。(ジャージ・Tシャツ等)  
 また、教科書、筆記用具、ワークシート冊子を持参する

授業科目	基礎演習				
担当教員	梅下弘樹・丸山笑里佳・山田悠莉・櫻井貴大				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			◎

**授業の目的**  
 保育者を目指す大学生として2年間の学びに包括的な展望を持ち、学修をより有効なものにするために、①大学で学ぶために必要な基本的な学修技術、礼儀やマナーを実践的に習得する②豊かな人間関係を築くためにコミュニケーションや表現力の基礎を身に付けることを目的とする。

**授業の到達目標**  
 1、自分自身と向き合い、自分のことを様々な形で表現することができる  
 2、2年間の学びに見通しをもつことができる  
 3、大学生として相応しい「聞く、読む、話す、書く、調べる、伝える、まとめる」ことができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・毎時授業で課された課題を1時間程度行う(ワークシートの記入、レポート作成、実技課題等)  
 ・保育者として必要なマナーや礼儀について興味関心を持ち、自分の不足している力を補えるように生活の中で30分~1時間程度意識して行動する努力をする

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 『大学で学ぶ』ということはどういうことか
2	「話し方」について学ぶ
3	「聞き方」について学ぶ
4	「話し方」「聞き方」のまとめ
5	2年間の学びの展望を持つ(基礎学力試験、目標設定)
6	「調べ方」について学ぶ
7	「書き方」について学ぶ
8	「読み方」について学ぶ
9	「調べ方」「書き方」「読み方」のまとめ
10	「まとめ方」について学ぶ
11	「伝え方」について学ぶ
12	「まとめ方」「伝え方」のまとめ
13	グループワーク1(企画)
14	グループワーク2(実践)
15	グループワーク3(発表) まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 ワークシート、レポートなどの提出物 50%、制作物、実践、発表内容 50%、計 100%

**教科書**  
 必要な資料は随時配布する

**参考書・参考資料**  
 『保育の学び スタートブック』久富陽子 萌文書林  
 『保育者になるための国語表現』田上貞一郎 萌文書林

**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・授業内容によって教室が変更になる場合があるため、担当者からの連絡、掲示に注意をすること  
 ・材料や持ち物、服装など担当者より指示があった場合は準備をする(準備を怠った場合、受講が認められない場合があるので注意する)

授業科目	保育者論				
担当教員	大倉 健太郎				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

**授業の目的**  
 本授業は、保育という職業に必要な知識や技能、倫理といった専門性について学び、保育職への責任、子どもに対する理解や共感、そして保育現場の実際について把握することを目指す。

**授業の到達目標**

1. 保育者の役割について多角的に説明できる。
2. 保育者に必要な基礎的知識とは何か説明できる。
3. 保育者に求められる倫理観について説明できる。

**自修について(予習・復習内容等)**

1. 事前にテキストに目を通し、わからないこと等を列挙しておく(毎時2時間)
2. 授業の内容を振り返り、次への課題を自分なりに整理する(毎時2時間)

回数	授業計画・内容
1	保育者になるということ(免許・資格について)
2	保育者になるということ(資質について)
3	保育者の一日(一日の流れについて)
4	保育者の一日(給食、午睡、お迎え、職員会議について)
5	子どもの思いや育ちを理解する仕事(子ども理解について)
6	子どもの思いや育ちを理解する仕事(エピソード記録の活用)
7	子どもと一緒に心と体を動かす仕事(幼稚園の場合)
8	子どもと一緒に心と体を動かす仕事(保育所の場合)
9	保育者に必要な力量、役割等の中間まとめ
10	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事
11	保護者や学校と一緒に歩む仕事(保護者支援について)
12	保護者や学校と一緒に歩む仕事(地域育で支援について)
13	学び合う保育者(保育者の成長と省察について)
14	学び合う保育者(同僚性について)
15	保育者の専門性とは何か(総括)
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 中間試験 50%、期末試験 50%、計 100%

**教科書**  
 汐見・大豆生田編『保育者論』ミネルヴァ書房

**参考書・参考資料**  
 資料プリントを配付することがある。

**その他(学生へのアドバイス)**  
 15回すべての授業に出席するよう努めること。2単位の取得には、60時間の予習復習が求められており、本授業はすべての学生が予習してきているものとして進められることを理解しておくこと。  
 最終回後に、この授業で学んだことをまとめ、保育・教職実践演習(幼)等に備えること。

授業科目	教育原理				
担当教員	大倉 健太郎				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎		

**授業の目的**  
 主に、明治期から今日までの学校(園)をめぐる諸問題を通じて、教育とはなにかを問い、自分なりの教育観を確立することを目的とする。また、教育資(史)料や答申等を活用し、教育を取り巻く環境や学校の制度や仕組みについて理解を深めていく。

**授業の到達目標**

1. 近代教育の理念や目的を説明できる。
2. わが国における公教育の歴史を説明できる。
3. 五領域を中心とした教育活動(学級経営)を説明できる。
4. 自身の教育観や子ども観について説明できる。

**自修について(予習・復習内容等)**

1. 事前にテキストに目を通し、提出用ワークシート等を完成する(毎時2時間)
2. 授業の内容を振り返り、自習用ワークシート等をまとめる(毎時2時間)

回数	授業計画・内容
1	「教育原理」について
2	わが国および諸外国の近代的人間観と近代教育の理念および制度
3	わが国および諸外国の公教育の歴史、そして学校の誕生
4	人間の主体性と可能性の「発見」
5	発達と社会化
6	家庭、学校(園)、社会の教育的関係
7	近代的人間観および近代的教育の意味するもの(中間のまとめ)
8	学級経営と教育の方法
9	教育評価、および保育の記録
10	ポートフォリオ評価とルーブリック
11	個別学習と一斉学習
12	教育委員会制度とレイマン・コントロール
13	学校(園)制度と教師(保育者)との関係
14	特別支援教育
15	今後の公教育への期待と役割(総括)
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 ・提出物の提出 20%、  
 ・中間試験 40%、期末試験 40%、計 100%

**教科書**  
 大学教育実践研究会編『教育を考える』相川書房

**参考書・参考資料**  
 随時、授業にて資料を配布する。

**その他(学生へのアドバイス)**  
 15回すべての授業に出席するよう努めること。2単位の取得には、60時間の予習復習が求められており、本授業はすべての学生が予習してきているものとして進められることを理解しておくこと。  
 最終回後に、この授業で学んだことをまとめ、保育・教職実践演習(幼)等に備えること。

授業科目	発達と教育の心理学				
担当教員	丸山 笑里佳				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	

**授業の目的**  
 保育者として発達を学ぶことは、子どもの安全への配慮や子どもの理解、援助をしていく上で重要である。この授業では、子どもと関わる際に必要な、子どもの発達についての基礎的な知識や概念を習得することを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。
  2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもの理解を深める。
  3. 子どもが人と相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。
  4. 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 1～14 回まで毎回の授業につき予習復習等1時間  
 授業の範囲について、各自教科書を読み、復習を行う  
 14 回目 試験準備として1時間

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション: 保育と心理学
2	子どもの発達理解(1)子どもの発達と環境
3	子どもの発達理解(2)身体的機能と運動機能の発達
4	子どもの発達理解(3)知覚と認知の発達
5	子どもの発達理解(4)言葉の発達と社会性
6	子どもの発達理解(5)感情の発達と自我の発達
7	人との相互的にかかわりと子どもの発達(1) 母子関係とアタッチメント、基本的信頼感の獲得
8	人との相互的にかかわりと子どもの発達(2) 社会的相互作用: 遊びと仲間関係の発達
9	人との相互的にかかわりと子どもの発達(3) 動機づけと学習のメカニズム
10	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(1) 生涯発達と発達援助、心理社会的発達理論
11	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(2) 胎児期、新生児期の発達
12	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(3) 乳幼児期の発達
13	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(4) 児童期、青年期の発達
14	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(5) 成人期、老年期の発達
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 筆記試験 80%、ブリーフレポート 20%、計 100%

**教科書**  
 『保育の心理学 第2版』 ナカニシヤ出版

**参考書・参考資料**  
 毎回資料を配布または提示する。

**その他(学生へのアドバイス)**  
 配布された資料は整理し、毎回持参すること。

授業科目	保育内容総論				
担当教員	野田 美樹				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 乳幼児の健全な成長は「領域」や「活動内容」の枠を越えて遊びや生活を通して総合的に営まれていることを知り、保育内容や保育方法が園生活においてどのような仕組みで子どもたちの発達を支えているのかについて理解することを目的とする

- 授業の到達目標**
- (1) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の保育内容を理解するとともに各章の繋がりを読み取り、保育の全体的な構造について説明することができる
  - (2) 子どもや子どもの集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりを説明することができる
  - (3) 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践の場面と繋げて考えることができる
  - (4) 保育の多様な展開について具体的に説明することができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・授業で配布するレジメには板書を記入するだけでなく、必ず復習を行い自らの学びも記入する(毎回 30 分～1 時間程度)  
 ・5～9 回では小テストを行うので予習して授業に臨む(約 1 時間)  
 ・試験問題はレジメから出題するので、授業後必ず復習をする(毎回 30 分～1 時間程度)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション・子ども理解
2	幼稚園・保育所・認定こども園の役割と保育内容
3	遊びや生活を通して学ぶということ
4	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における保育内容の捉え方
5	領域と保育内容(1)「健康」
6	領域と保育内容(2)「人間関係」
7	領域と保育内容(3)「環境」
8	領域と保育内容(4)「言葉」
9	領域と保育内容(5)「表現」
10	年齢と保育内容(1)0 歳～2 歳
11	年齢と保育内容(2)3 歳～5 歳
12	子育て支援・保育の多様性
13	保育の内容を深める遊びや文化財(1)絵本・紙芝居・わらべうた
14	保育の内容を深める遊びや文化財(2)造形遊び
15	全体のまとめ・ノート提出
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 小テスト・授業内レポート 30%、ノート提出内容 30%、期末試験 40%、計 100%

**教科書**  
 『保育内容総論』 大豆生田敬友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ ミネルヴァ書房

**参考書・参考資料**  
 『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業中に配布するレジメ・資料などは全てノートまたはファイルに綴じて整理すること。ノート提出の際に確認する。

授業科目	保育内容総論				
担当教員	櫻井 貴大				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
乳幼児の健全な成長は「領域」や「活動内容」の枠を越えて遊びや生活を通して総合的に営まれていることを知り、保育内容や保育方法が園生活においてどのような仕組みで子どもたちの発達を支えているのかについて理解することを目的とする

- 授業の到達目標**
- (1) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の保育内容を理解するとともに各章の繋がりを読み取り、保育の全体的な構造について説明することができる
  - (2) 子どもや子どもの集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりを説明することができる
  - (3) 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践の場面と繋げて考えることができる
  - (4) 保育の多様な展開について具体的に説明することができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
・授業前に教科書の該当部分を読んで理解してから臨む(30分)。  
・ニュースや新聞等で保育や子育てに関する情報に関心を向ける。  
・レジュメを整理し、授業後復習しておく(30分)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション・幼稚園・保育所・認定こども園の比較
2	保育の基本と保育内容
3	心身の健康に関する領域「健康」
4	人とのかかわりに関する領域「人間関係」
5	身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」
6	言葉の獲得に関する領域「言葉」
7	感性と表現に関する領域「表現」
8	0～2 歳児の発達・遊びと保育内容
9	3 歳児の発達・遊びと保育内容
10	4 歳児の発達・遊びと保育内容
11	5 歳児の発達・遊びと保育内容
12	預かり保育・長時間保育・地域子育て支援と保育内容
13	保幼小連携の原理と保育内容
14	絵本・紙芝居・運動遊び・造作遊びと保育内容
15	まとめと振り返り
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
小テスト 30%、ノート提出内容 30%、期末試験 40%、計 100%

**教科書**  
『第 2 版 保育内容総論』(大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ ミネルヴァ書房)

**参考書・参考資料**  
『保育所保育指針 解説書』(厚生労働省 フレーベル館 2008 年)  
『ここが変わった NEW 幼稚園教育要領 NEW 保育所保育指針 ガイドブック』(無藤隆・民秋言 フレーベル館 2008 年)  
『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解』(内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 2015 年)

**その他(学生へのアドバイス)**  
不明な点があれば、その場で質問すること。

授業科目	保育内容演習(健康)				
担当教員	山下 晋				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
領域「健康」は、乳幼児期に心身の健康の基礎を培い、生活に必要な習慣や態度を身につけ、生涯にわたり健康で安全な生活を送っていくための力を養う観点から示されている。本科目では、保育者として、乳幼児期の子どもの発達段階に合わせた生活習慣(運動・食事・休養など)や安全管理はどうあるべきなのか、そして、子どもの発育発達のための視点の持ち方と関わり方について、実践的に学び、理解することを目的とする。

- 授業の到達目標**
- (1) 子どもの心身の発育発達や、健康で安全な生活を送るための視点と関わり方について説明することができる。
  - (2) 子どもの「健康」に関心を持ち、発達段階にあった関わり方について考えや意見を示すことができる。
  - (3) 子どもの発育発達に関する知識を基にした基礎的な援助技術を工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
毎時終了後、ワークシートに授業内容(運動遊びの知識や援助・補助のあり方)の振り返りと、継続的な身体活動や基本運動技能の習得を合わせて 1 週間当たり 1 時間行うこと。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション及び領域「健康」のねらい
2	子どもの身体の発達と健康
3	子どもの心の発達
4	子どもの生活習慣 (1) 「運動あそび」について
5	子どもの生活習慣 (2) : 「食事」、「睡眠」について
6	子どもの生活習慣 (3) : 「着衣」、「清潔」、「排せつ」について
7	子どもの安全・健康管理
8	領域「健康」の指導計画
9	子どもの健康問題の探求 (1) 1～4 班の発表及び質疑応答
10	子どもの健康問題の探求 (2) 5～8 班の発表及び質疑応答
11	子どもの健康問題の探求 (3) 9～12 班の発表及び質疑応答
12	子どもの健康問題の探求 (4) 13～16 班の発表及び質疑応答
13	子どもの健康問題の探求 (5) 17～20 班の発表及び質疑応答
14	子どもの健康問題の探求 (6) 21～24 班の発表及び質疑応答
15	まとめ (全体の復習)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
授業時のワークシート 40%、課題 40%、筆記試験 20%、計 100%

**教科書**  
・「新時代の保育双書 保育内容 健康」(みらい)  
\*ワークシート(授業ノート)を配布する。

**参考書・参考資料**  
・0～5 歳児の生活習慣身につけ book (ひかりのくに)  
・ケガ&病気の予防・救急マニュアル (ひかりのくに) など

**その他(学生へのアドバイス)**  
なし

授業科目	保育内容演習(健康)				
担当教員	渡部 努				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 領域「健康」は、乳幼児期に心身の健康の基礎を培い、生活に必要な習慣や態度を身につけ、生涯にわたり健康で安全な生活を送っていくための力を養う観点から示されている。本科目では、保育者として、乳幼児期の子どもの発達段階に合わせた生活習慣(運動・食事・休養など)や安全管理はどうあるべきなのか、そして、子どもの発育発達のための視点の持ち方と関わり方について、実践的に学び、理解することを目的とする。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもの心身の発育発達や、健康で安全な生活を送るための視点と関わり方について説明することができる。  
 (2) 子どもの「健康」に関心を持ち、発育段階にあった関わり方について考えや意見を示すことができる。  
 (3) 子どもの発育発達に関する知識を基にした基礎的な援助技術を工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ○ 1~11 回までの毎回の授業につき、授業内容の振り返り 30 分  
 ○ 5~11 回は、課題研究・発表準備 合計 7 時間  
 ○ 12~15 回は、試験準備として 合計 3 時間

回数	授業計画・内容
1	子どもの生活と健康について
2	保育の基本と領域「健康」
3	乳幼児期の身体の発育・発達
4	乳幼児期の生活リズムや生活習慣
5	乳幼児の安全と保健指導
6	乳幼児期に培いたい「食を営む力」
7	領域「健康」と保育方法
8	領域「健康」と保育の実践(1) 戸外遊び・基本的な生活習慣の形成
9	領域「健康」と保育の実践(2) 食育・子どもの健康と安全
10	領域「健康」の指導上の留意事項(1) 運動意欲を育む保育と環境構成
11	領域「健康」の指導上の留意事項(2) アレルギーへの対応・食育の環境
12	乳幼児の健康問題に対する援助方法の探求(1)発表及び質疑応答
13	乳幼児の健康問題に対する援助方法の探求(2)発表及び質疑応答
14	乳幼児の健康問題に対する援助方法の探求(3)発表及び質疑応答
15	領域「健康」のまとめとこれからの課題
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 提出物 20%、課題発表 40%、筆記試験 40%、計 100%

**教科書**  
 『最新保育講座 7 保育内容「健康」』 河邊貴子他編 ミネルヴァ書房

**参考書・参考資料**  
 ○ 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館  
 ○ 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館  
 ○ 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』  
 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館  
 ○ 『新時代の保育双書 保育内容 健康』 春日 晃章他編 みらい  
 ○ 『0~5 歳児の生活習慣身につけ book』 永井裕美 ひかりのくに

**その他(学生へのアドバイス)**  
 配布したレジュメや資料は、整理して保存する。

授業科目	保育内容演習(言葉)				
担当教員	鈴木 穂波				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 言葉は、子どもの発達や育ちを考えるうえで重要な役割を担う。領域「言葉」のねらいと内容について知り、乳幼児期の言葉の発達を促すための保育者の役割を理解し、実践できる力を身に付けることを目的とする。

**授業の到達目標**  
 ①領域「言葉」のねらいと内容について説明することができる。  
 ②領域「言葉」のねらいに沿って、言葉の発達を促すための保育者の役割について、自分の考えを文章等で示すことができる。  
 ③子どもの言葉の発達を促すための技術の基礎を身に付け、その方法を工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 毎回の授業につき、予習(試験準備含む)・復習(ワークシート作成等) 1時間。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション、領域「言葉」のねらい
2	子どもはどのように言葉を身に付けていくか(1)言葉を身に付けるとはどういうことなのか
3	子どもはどのように言葉を身に付けていくか(2)言語前期
4	乳幼児期における言葉の発達と援助(1) 0 歳児
5	乳幼児期における言葉の発達と援助(2) 1 歳児
6	乳幼児期における言葉の発達と援助(3) 2 歳児
7	乳幼児期における言葉の発達と援助(4) 3 歳児
8	乳幼児期における言葉の発達と援助(5) 4 歳児
9	乳幼児期における言葉の発達と援助(6) 5~6 歳児
10	中間まとめ
11	言葉の発達を促す援助をどう考えるか—保育の計画や実践—
12	言葉が育つ環境と文化財(1)絵本の読み聞かせ
13	言葉が育つ環境と文化財(2)紙芝居
14	言葉が育つ環境と文化財(3)ことばで遊ぶ
15	期末まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 毎時のワークシート 40%、筆記試験 60%、計 100%

**教科書**  
 『保育内容 ことば』成田徹男／編 みらい

**参考書・参考資料**  
 随時提示

**その他(学生へのアドバイス)**

授業科目	保育内容演習(言葉)				
担当教員	小野 孝美				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 領域「言葉」のねらいと内容を踏まえ、保育現場で乳幼児の様々な言葉に接した時に、それを理解し適切な対応ができるよう、乳幼児の言葉の発達の過程について理解する。また、言葉の発達を促すための保育者の役割を理解し、保育の場を想定した基本的な教材の理解や実践力を身につける。

**授業の到達目標**  
 領域「言葉」のねらいと内容、及び乳幼児の言葉の発達過程を理解する。そのねらいに沿って、言葉の発達を促すための保育者の役割を知り、基本的な指導法を身につける。言葉の発達を促すための基本的な教材を知り、技術を身につけ、その方法を工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 児童文化教材に触れながら、なぜ、幼児に児童文化教材が必要かを理解する。伝承あそび、言葉あそび、絵本、ペープサート、紙芝居、牛乳パック、画用紙など廃材を利用して作成し、演じる。(合計 12 時間)  
 絵本を読むことで選んだ理由、話の内容を理解して絵本ノートを作成する。(合計 3 時間)

回数	授業計画・内容
1	保育内容「言葉」の授業のねらい、目標、内容について
2	幼児と言葉について … 幼児教育と保育内容「言葉」とは
3	領域「言葉」のねらいと内容 — 保育所保育指針
4	領域「言葉」のねらいと内容 — 幼稚園教育要領
5	乳幼児期における言葉の発達 — 喃語 ・ 吃音 ・ 一語文 ・ 質問期
6	コミュニケーションの道具である言葉とは …
7	言葉と環境 ・ 保育者と言葉環境
8	話し言葉と環境 ・ 人的環境の影響
9	言葉の発達を促す援助 — 保育計画や実践から考える
10	言葉の発達を促す援助 — 保育者の言葉 ・ 子どもとの関わり
11	保育者による言葉の発達の指導、支援について — 観察、受容、支援など
12	児童文化教材と実践 — 教材の必要性、教材づくり
13	子どもの言葉の習得を援助する技術—手遊び ・ 絵かき歌 ・ 紙芝居
14	子どもの言葉の習得を援助する技術—詩 ・ 素話(おはなし)
15	子どもの言葉の習得を援助する技術—保育の場を想定した実践
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 提出物(製作物を含む)提出・グループ発表・絵本ノート作成、授業での発言内容ほか 20%、実技の習得状況や提出物ほか 10%、筆記試験(テキスト・ノート持ち込み可)70%、計 100%

**教科書**  
 「新時代の保育双書保育内容 ことば」第 2 版 成田 徹男 みらい

**参考書・参考資料**  
 『幼稚園教育要領』平成 20 年告示 文部科学省フレーベル館  
 『保育所保育指針』平成 20 年告示 厚生労働省フレーベル館  
 『子育てに絵本を』山崎翠 エイデル研究所

**その他(学生へのアドバイス)**  
 紹介する参考文献、資料だけでなく、関連すると思われる文献を自ら探し読んでおく。

授業科目	保育表現演習				
担当教員	妹尾 美智子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	○

**授業の目的**  
 子どもが自発的・主体的な表現活動を楽しむことができるように、自己の経験や学びを振り返り、対象や目的を整理して、遊びの計画や援助技術を修得する。また、幼児教育祭に向けた協働作業を通して、保育者に必要な表現力を身につける。

**授業の到達目標**  
 (1)子どもが表現活動に興味・関心を持つための環境構成や、援助のあり方について説明することができる。  
 (2)子どもの表現活動を実践するため、自分の考えや意見を示すこと、仲間と協力して創意工夫をすることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・いろいろな表現活動に取り組み、それを楽しむようにする。  
 ・グループの活動には積極的に協力するようにする。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	子どもの発達と表現活動について(歌を通して)
3	子どもの発達と表現活動について(遊びを通して)
4	保育内容についての理解
5	表現演習(物語の創作)
6	表現演習(物語の創作と発表)
7	幼児教育祭での発表テーマについてグループで検討する。
8	幼児教育祭での発表テーマについて決定(ねらい、内容の確認)
9	幼児教育祭の発表準備①(子どもの遊びに関する資料研究)
10	幼児教育祭の発表準備②(遊びの具体的な内容研究)
11	幼児教育祭の発表準備③(グループ毎の制作活動の準備)
12	幼児教育祭の発表準備④(グループ毎の制作活動)
13	幼児教育祭の発表準備⑤(発表会場設営と製作物の確認)
14	幼児教育祭での発表(発表を通して子どもへの関わりを考える)
15	幼児教育祭での発表(活動のまとめと振り返り)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 成果発表 70%、レポート 30%、計 100%

**教科書**  
 特になし

**参考書・参考資料**  
 随時提示

**その他(学生へのアドバイス)**  
 グループ活動には積極的に参加する。

授業科目	保育表現演習				
担当教員	山下 晋				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	○

**授業の目的**  
 子どもが自発的・主体的な表現活動を楽しむことができるように、自己の経験や学びを振り返り、対象や目的を整理して、遊びの計画や援助技術を修得する。また、幼児教育祭に向けた協働作業を通して、保育者に必要な表現力を身につける。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもが表現活動に興味・関心を持つための環境構成や、援助のあり方について説明することができる。  
 (2) 子どもの表現活動を実践するため、自分の考えや意見を示すこと、仲間と協力して創意工夫をすることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 毎時終了後、ワークシートに授業内容の振り返りと、文献などによる資料収集(各年齢、季節に合致した遊び)を合わせて1週間当たり1時間行うこと。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	子どもとあそび(1): 体を動かすあそび① 1つの素材から、あそびのバリエーションを考える。
3	子どもとあそび(2): 体を動かすあそび② あそびの発展的段階を考える
4	子どもとあそび(3): 迷路あそび、錯視・錯覚あそび
5	子どもとあそび(4): 身近な素材を使った制作あそび
6	学びを実践につなげる(1): 実践の場を考える(企画)
7	学びを実践につなげる(2): 実践の場を発表し、共有する
8	幼児教育祭の準備(1): 制作準備
9	幼児教育祭の準備(2): 制作
10	保育特別講座(人形劇観劇)
11	幼児教育祭の前日準備: 試行と確認
12	幼児教育祭への参加(1): 1日目午前
13	幼児教育祭への参加(2): 1日目午後
14	幼児教育祭への参加(3): 2日目午前
15	幼児教育祭への参加(4): 2日目午後
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 ワークシート(期末試験レポートを含む)70%, 課題30%, 計100%

**教科書**  
 ワークシート(授業ノート)を配布する。

**参考書・参考資料**  
 「新版 遊びの指導 乳・幼児編」  
 (財団法人幼少年教育研究所, 同文書院)

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業内容を確認し、服装や用具の準備をすること。

授業科目	保育表現演習				
担当教員	丸山 笑里佳				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	○

**授業の目的**  
 子どもが自発的・主体的な表現活動を楽しむことができるように、自己の経験や学びを振り返り、対象や目的を整理して、遊びの計画や援助技術を修得する。また、幼児教育祭に向けた協働作業を通して、保育者に必要な表現力を身につける。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもが表現活動に興味・関心を持つための環境構成や、援助のあり方について説明することができる。  
 (2) 子どもの表現活動を実践するため、自分の考えや意見を示すこと、仲間と協力して創意工夫をすることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 1~15回まで毎回の授業につき復習・振り返り等30分間  
 グループワークや幼児教育祭の準備の進捗状況や課題について、毎時記録を行い、提出する。  
 4~13回まで、課題・制作準備45分間  
 ・教材研究では、子どもの遊びについての文献などを用いて資料の収集や整理を行い、発表準備を行う。  
 ・クラスおよび各グループで決まった制作物の制作を進めていく。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	子どもと遊び
3	グループワークの理解
4	グループワークによる遊びの教材研究(1)内容の決定
5	グループワークによる遊びの教材研究(2)企画案の立案
6	グループワークによる遊びの教材研究(3)配慮する点・課題を考える
7	グループワークによる遊びの教材研究(4)発表資料作り
8	グループワークによる遊びの教材研究(5)成果発表
9	幼児教育祭の準備(1)企画の立案
10	幼児教育祭の準備(2)制作準備
11	幼児教育祭の準備(3)制作
12	幼児教育祭の準備(4)制作続き
13	幼児教育祭の準備(5)仕上げ、打ち合わせ
14	幼児教育祭への参加(1日目)
15	幼児教育祭への参加(2日目)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 発表・レポート80%、毎時の記録20%、計100%

**教科書**  
 なし

**参考書・参考資料**  
 『教育・保育実習 安心ガイド』(ひかりのくに)

**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・成果を幼児教育祭で発表する。  
 ・グループワークや幼児教育祭の準備では、グループの一員として活動に参加し、積極的に取り組むこと。

授業科目	保育表現演習				
担当教員	櫻井 貴大				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	○

**授業の目的**  
 子どもが自発的・主体的な表現活動を楽しむことができるように、自己の経験や学びを振り返り、対象や目的を整理して、遊びの計画や援助技術を修得する。また、幼児教育祭に向けた協働作業を通して、保育者に必要な表現力を身につける。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもが表現活動に興味・関心を持つための環境構成や、援助のあり方について説明することができる。  
 (2) 子どもの表現活動を実践するため、自分の考えや意見を示すこと、仲間と協力して創意工夫をすることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・毎時、授業でワークシートを記入するので、復習をして整理しておく(30分)  
 ・子どもを取り巻く環境や問題について、文献などを用いて資料収集を行う。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	子どもを取り巻く環境と表現活動(1) 身体を使った遊び
3	子どもを取り巻く環境と表現活動(2) 室内遊び・伝承遊び
4	グループによる表現活動研究(1)企画の立案
5	グループによる表現活動研究(2)発表準備
6	グループによる表現活動研究(3)発表
7	グループによる表現活動研究(4)討議と幼児教育祭での発表に向けて
8	幼児教育祭の発表準備(1)企画と立案
9	幼児教育祭の発表準備(2)製作準備
10	幼児教育祭の発表準備(3)製作
11	幼児教育祭の発表準備(4)仕上げ 当日の打ち合わせ
12	幼児教育祭の発表準備(5)前日準備と製作
13	幼児教育祭の発表準備(6)前日準備と確認
14	幼児教育祭での発表(1)1日目
15	幼児教育祭での発表(2)2日目
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 授業時のワークシート 30%、課題 40%、レポート 30%、計 100%

**教科書**  
 随時、資料を配布、提示する。

**参考書・参考資料**  
 随時、資料を配布、提示する。

**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・グループ活動に主体的に取り組むこと  
 ・配布された資料は整理しておくこと

授業科目	指導法の研究				
担当教員	吉田 龍宏				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 この授業では、公的保育施設のケル保育の基本である遊びを通しての保育について、具体的にどのように展開すればよいのかを理論的に理解し、それを具体的に実践するための基礎的な資質を獲得することを目的とする

**授業の到達目標**  
 遊び保育における環境の構成、保育者の関わり、幼児理解について、集団保育の実践者であることを踏まえて、実践する。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 この授業では、集団保育を前提として、遊び保育の具体的な展開について理論的に学びながら、実際の保育場面の映像やグループワーク、発表をするので、授業時の課題について、事前・事後の準備を十分すること(毎回2時間の予習・復習)

回数	授業計画・内容
1	遊び保育ってなんだろう～遊びの意義と再生への課題～
2	遊び保育の実践に必要な考え方を学ぼう
3	「ノリ」について具体的場面から学ぼう
4	遊び保育を保障する環境とは？
5	保育室の環境を考えよう～グループでの検討～
6	保育室の環境を考えよう～発表の準備～
7	保育室の環境～グループ発表①～
8	保育室の環境～グループ発表②～
9	遊び保育を保障する子供理解・環境・援助を考えよう
10	室内遊びにおける遊び保育の実践を検討しよう
11	低年齢児や様々な場面における保育について考えよう
12	一斉活動や戸外活動における環境・援助を考えよう
13	遊び保育を支えるクラス活動～朝の会編～
14	遊び保育を支えるクラス活動～当番編～
15	遊び保育を支えるクラス活動～行事編～
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 グループ発表60%、レポート40%、計 100%

**教科書**  
 吉田龍宏・渡辺桜編著『遊び保育のための実践ワーク』萌文書林  
 小川博久著「遊び保育論」萌文書林

**参考書・参考資料**  
 小川博久・岩田遼子著「子どもの「居場所」を求めて」ななみ書房

**その他(学生へのアドバイス)**  
 この授業は講義科目ですが、指導法の授業として具体的なグループワーク、ディスカッションを活発に行います。したがって、授業前後の準備とともに、授業への積極的な参加を期待します。また、実践について学生の皆さんからの質問等も歓迎します。

授業科目	幼児理解の理論と方法				
担当教員	鈴木 文代				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	

**授業の目的**  
 子どもの発達とは、心身の成長に伴い自らの能動性を発揮する状況の中で環境と関わり合いながら、自立的に生きていくために必要な能力や態度を獲得していく過程である。そのような子どもの発達を支える保育者の専門職として、発達、教育、臨床的側面から子どもを理解する方法と評価について修得する。更に、一人ひとりの子どもの発達の可能性を促す温かい視点とは何かについて考察し、子どもを教育するための自らの視点の獲得を目的とする。

**授業の到達目標**  
 (1) 幼児を理解するとはどのようなことか、具体的方法を工夫することができる。  
 (2) 保育活動を展開するのに必要な活動や技術ばかりを習得せず、一人一人の幼児に何が起り、何を体験して、何が身についたのかに目を向けた『一人一人に応じる保育の在り方』を理解する。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・幼児の姿を理解するため、幼児に触れる機会を積極的に求め、その姿を記録する。3回以上  
 ・授業後、授業の内容について配布したレジュメや資料を読み返し、理解したこと、疑問や分からない点をチェックすること。1~14回まで1時間・分からないことは次の授業で質問し解決すること。一人2回以上

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 幼児理解のために
2	保育者の理解の枠組み
3	保育の中での幼児理解
4	幼児理解の基盤となるもの(1) DVD 視聴(3歳児)
5	幼児の「内なる世界」と「外なる世界」
6	幼児理解の基盤となるもの(2) DVD 視聴(4歳児)
7	幼児理解の基盤となるもの(3) DVD 視聴(5歳児)
8	保育とカウンセリングマインド(環境・信頼関係から)
9	保育とカウンセリングマインド(理解者・援助者として)
10	保育臨床におけるカウンセリングマインド
11	子育て支援におけるカウンセリングマインド
12	幼児理解と歴史
13	共感的理解について(1) 子ども・子どもたち
14	共感的理解について(2) 保護者・保護者間
15	授業のまとめと今後の課題
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 提出物 10%、小テスト 30%、試験 60%、計 100%

**教科書**  
 森上史郎 他編  
 親 保育講座「幼児理解と保育援助」 ミネルヴァ書房 (購入必須)

**参考書・参考資料**  
 文部科学省「幼児理解と評価」(株)ぎょうせい

**その他(学生へのアドバイス)**  
 幼児について日ごろから思っている疑問や意見を発表するなど、積極的に参加すること。科目の性格上、講義中心になるので予習・復習をしっかりすること。

授業科目	教育実習(事前・事後指導を含む。)				
担当教員	野田美樹・櫻井貴大				
開講時期		講義形態	実習	単位数	5単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
 事前指導では、幼稚園の概要や「幼稚園見学実習」に向けて必要な心構えや、書類・記録の作成の方法を学ぶことを目的とする。実習では、幼稚園の役割や機能を具体的に理解し、保育者の業務内容や子どもの興味・関心、環境へのかかわり方、遊びの実態などを観察し、子どものかかわりを通して実践することを目的とする。  
 事後指導では、実習の振り返りが「幼稚園本実習」への課題に繋がるような省察ができることを目的とする。

**授業の到達目標**  
 (1) 教育実習の意義・目的を理解し、説明することができる。  
 (2) 「見学実習」の内容を理解し、自らの課題を文章化できる。  
 (3) 幼稚園の生活の流れや機能、保育者の役割について理解し、説明することができる。  
 (4) 子どもの遊びや活動に積極的にかかわることができる。  
 (5) 事後指導を通して自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にし、文章化できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 実習に必要な書類作成、教材研究、制作物、記録等授業内で説明を受けた後、全て予習・復習が必要となる。毎回1時間行うこと。止むを得ず欠席した場合は授業と同時間の補充を行う。

回数	授業計画・内容
	<b>【事前指導の主な内容】</b>
	教育実習の意義(目的・概要)、見学実習の内容と課題の明確化
	幼稚園の特徴や子どもの生活、子ども理解
	実習に際しての留意事項、心構え、書類作成
	実習の計画と実習記録
	現地オリエンテーション
	<b>【見学実習の主な内容】</b>
	幼稚園の一週間の生活の流れや子どもの遊びについての理解
	子ども同士、保育者と子どもとのかかわりの理解
	保育者の役割を見学・観察から理解
	保育のための準備・環境構成における保育者の仕事内容の把握
	<b>【事後指導の主な内容】</b>
	実習の総括と自己評価
	「幼稚園本実習」に向けた課題の明確化

**成績評価の方法・基準**  
 実習園の評価 50%、提出物 30%、授業ファイル 20%、計 100%

**教科書**  
 『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説書』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館  
 『保育・教育実習を深める』・『保育・教育実習から学ぶ(第2版)』愛智出版  
 『保育の計画と方法(第3版)』同文書院

**参考書・参考資料**  
 『実習の手引き』

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業内で配付する資料は規定の「授業ファイル」に整理して綴じ、授業終了時に提出する。「実習記録」は実習後に提出する。「実習の手引き」に記載されている「実習参加条件」に従って、実習参加の可否を決定する。